

令和7年度 江戸川区立中小岩小学校 学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	よく考える子 思いやりのある子 たくましい子					目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	わくわく ときどきする学校 多様性を認め合い、主体的に学び行動する児童 職員自身が最大の教育環境				
前年度までの本校の現状	成果	各教科等と特別活動との相互の関連を図りながら、児童の主体性を育む学習活動を推進できた。また、全国学力学習状況調査において、国語及び算数の平均正答率が上昇し、本校における学力の向上につながった。				課題	読解力や論理的に思考する力の育成と児童の学びに向かう力の涵養を図り、児童の主体的な学びと成長を促す教育活動の充実が課題である。				

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」自己（学校）評価(A～D)		「中間」学校関係者評価(A～D)		「年度末」自己（学校）評価（A～D）		「年度末」学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				9月	2月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力向上	○分かりやすいの学習指導の推進と児童の主体的な学習の充実	・ミライシードを活用した学習の取組	・教員及び児童の活用率が80%	60%	90%	C	さらに、事例の紹介や操作技術を高める取組が必要であ	C	操作技術に不慣れな教員や児童に対し、引き続き丁寧に取り組むことを望む	A	教員の活用率は80%、児童の活用率は90%を達成	A	情報モラル教育の一層の推進も望む	次年度の教育課程等でも指導の重点に位置付け、一層の推進を図る
		・各教科と特別活動と相互に関連付けた学習活動の実施	・児童の肯定的な評価80%	84%	90%	B	特に行事と各教科と関連付けた学習が定着しつつある	B	関連付けて取り組むよさや校歌について、様々な機会を通じて情報を発信することを臨む	A	児童の評価は90%を達成 各教科と行事との関連付けた学習が一層充実した	A	中小岩小が推進する教育活動の一層の充実に期待する	次年度の教育課程等でも指導の重点に位置付け、内容の充実を図る
	○読書科の更なる充実	・読書科等の探究的な学習と各教科等と関連付けた学習	・年12回思考ツールを活用した学習の実施	50%	80%	C	1学期は読書を中心に進めていたが、2学期からは年間指導計画に基いた学習を一層推進する	C	読書と探究的な学習の結び付きがが分かりにくいため、この点にも配慮して取り組むことを望む	B	全学年、指導計画に基づいて読書科の学習を実施	B	探究的な学習としての読書科とともに読書に親しむことについて一層の充実を望む	読書科に対する理解が広がるよう情報発信を強化する
体力向上	○体育学習の充実	・校内研究と関連付けた体育の学習の実施	・年3回の研究授業の実施	80%	100%	B	11月及び2月に研究授業を実施する予定である	B	校内研究を通じて得た知見や指導ほうほうを、体育の学習指導に生かすことを期待する	A	年4回研究授業を実施	A	研究のための研究ではなく、児童の学びを充実させるための研究の充実に期待する	本校の教育を活動を高める研究となるよう改善する
		・運動することが楽しいと実感する児童の育成	・児童の肯定的な評価が80%	82%	92%	B	改築工事下でも取り組める運動や体育を引き続き推進する	B	運動嫌いにならないよう、引き続き取り組むことを望む	A	児童の評価は92%を達成	A	今後も様々な工夫に取組み、充実を期待する	内容や活動場所等、工夫して取り組む
	○学校改築工事下における運動遊びの充実	・校内外の施設や異年齢交流と異年齢活動と関連付けた活動	・児童の肯定的な評価70%	70%	90%	B	引き続き、年間指導計画に基づいて実施する	B	時間や安全の確保もあるが、地域の施設などを、さらに積極的に活用することを望む	A	児童の肯定的な評価は90%を達成	A	校外での活動の充実を図ることを期待する	安全を確保しつつ、郊外施設での活動を充実させる
教育の実現に向けた共生社会の推進	○交流及び共同学習の推進	・指導計画と個別指導計画に基づく学習の実施	各学期に1回以上の実施	50%	90%	C	引き続き、年間指導計画に基づいて実施する	C	児童や教員の負担にならないよう配慮しつつ、本校の強みを生かした取組を推進することを期待する	A	交流及び共同学習の実施率は90%	A	児童の実態を踏まえた交流及び共同学習の充実を引き続き期待する	教育課程に位置付け、引き続き実施する
	○理解啓発学習の推進	・通級児童と指導教員による理解啓発学習の実施	・希望した児童による理解啓発学習の実施	50%	80%	C	今後、理解啓発授業に実施にむけた準備を進め、在籍学級と相談のうえ実施する	C	難しい面もあるだろうが、引き続き丁寧に取り組むことを望む	B	理解啓発授業の実施率は80%	B	理解啓発授業の実施率は80%	在籍学級と保護者と連携図りながら、次年度も実施する
	○エンカレッジルームを活用した個別支援の推進	・エンカレッジルームの保護者への理解啓発	・毎学期1回、ホームページで情報を発信	30%	50%	C	エンカレッジサポーターの配置を整え、教室の活用や取組の様子をホームページで発信する	C	人員の配置に苦慮したようだが、今後エンカレッジルームを積極的に活用することを望む	C	エンカレッジサポーターの配置は週3日程度、ホームページで発信回数が少ない	C	エンカレッジサポーターや塩化レンジルームの活用についてさらなる充実を期待する	他校の取組も参考にしつつ、充実を図る
不登校の充いじめ対応	○いじめ防止の取組	・いじめに関する授業と研修の実施	・年3回の実施	50%	100%	C	いじめに関する研修を2回、いじめの授業を1回まで実施した	C	年度当初の取組が重要であり、さらにスピード感をもって取り組むことを望む	A	いじめに関する研修及び授業を予定通り実施	A	来年度は年度当初の取組を充実することを望む	指導計画を見直し、年度当初から取り組めるよう改善する
	○教育相談の充実	・SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)、エンカレッジサポーターとの連携強化	・不登校児童とSCまたはSSW、エンカレッジサポーターとの連携100%	60%	80%	C	SCやSSWとの連携ができていない児童への取組を、引き続き行っていく	C	区の方針でもある誰かをつなげる取組を一層推進することを望む	B	SCまたSSwとの連携率は80%	B	来年度も引き続き取り組むことを望む	SCとSSWとの連携の仕方を工夫し、引き続き取組む
	○L-Gateを活用した取組	・L-Gateを活用した児童の健康等状況の確認	・児童の活用率100%	90%	90%	A	L-Gateを活用した取組を広げていく	A	人と人とのかかわりを大切にした取組も大切にしてほしい	A	L-Gateの活用率は90%	A	機器の活用とともに、人と人の関りについても、その充実を図ることを望む	他校の取組も参考にしつつ、充実を図る
学校（園）の開かれた地域社会の実現	○学校公開の取組	・土曜授業や平日の学校公開の実施	・年3回土曜授業と平日2日間の実施	80%	100%	B	11月までに土曜授業3回と平日2日間の学校公開を実施した	B	日常の学習の様子を知りたい参観者も多く、その点も考慮した公開を工夫してほしい	A	年3回の土曜授業と平日2日間の学校公開を実施	A	来年度も引き続き、公開の仕方をさらに工夫して取り組むことを望む	来年度も引き続き実施する
	○ホームページ等を活用した情報発信の充実	・ホームページやtetoruを活用した情報発信	・年間訪問者数10万人	90%	100%	B	9月現在で、年間訪問者数が8万人を超え、10万人達成に向けた取組を推進する	B	やむを得ないことだが、可能な限り、週1回の割合で全学級の様子を積極的に公開してほしい	A	12月に、年間訪問者数が10万人を達成	A	学校の方針や取組について理解を広げる取組であり、さらなる充実を期待する	各学級の取組が分かるよう掲載に仕方を工夫する
	○学校施設を活用した取組	・学校と家庭、地域と連携したイベントの実施	・校舎改築に関わるイベント実施	80%	100%	B	8月に旧校舎お別れイベントを実施した	A	期間を延ばしたことで多くの卒業生が来校でき、急行を温める機会もなった	A	予定していたイベントをすべて実施するとともに、ホームページにサイトを開設	A	卒業生や関係者の皆様に喜ばれ、よい取り組みであった	学校改築工事下での施設を利用した取組を研究する
教育の特色ある展開	○児童の主体的に社会に参加する教育活動の推進	・学級会や学校行事の充実	・各学期1回、児童が主体となる行事の実施	50%	100%	C	5月に「なかスポ」を実施し、引き続き、児童が主体的に取り組む教育活動を推進する	C	児童の主体性を伸ばしつつ、必要な力を伸ばせるよう引き続き取組むことを望む	A	各学期1回以上、児童が主体となる行事を実施	A	児童の主体性を育む学びは、本校が大事にしてきたものであり、さらなる推進を期待する	他校の実践事例を参考にしつつ、本校の取組の充実を図る
	○教員研修の実施	・教員の組織的な育成	・年8回のOJT研修の実施	70%	100%	B	主任教諭を中心に、計画通り実施している	B	このような研修は有効であり、さらに内容の充実にも力を入れてほしい	A	年8回のOJTを予定通り実施	A	教員の要望に応え、さらなる内容の充実を期待する	OJTの内容を見直し、教員の指導力向上につながる研修を実施する
	○働き方改革の推進	・月1回の定時退勤日の設定	・全教職員の月残業時間40時間以下	82%	90%	B	9月現在で82%に相当する教員が達成している	B	ライフワークバランスの取組をさらにすいしんすることを期待する	A	12月現在で90%に相当する教員が達成	A	引き続き、取り組むことを望む	成果と課題を踏まえ、次年度も継続して取組む